

アフター通信

2020年11月16日 NO.47
特定非営利活動法人
アフタースクール運営会
文責 理事長 矢野 穂

新型コロナウイルス感染症にかかる北海道の警戒ステージが「ステージ2」から「ステージ3」へと引き上げられました。そのような中、北海道の感染者数も急激に増加しております。

今後も続けてのコロナ対策にご協力をお願いします。

さて、この石山地区も紅葉し、冬の訪れを感じる季節となりました。本会の送迎用の車両は、すべてタイヤ交換を終了しています。また、除雪道具等の準備も進んでいます。



生徒の手作り、フレイズの看板設置

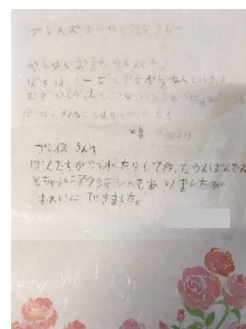
澄川中学校の特別支援学級の生徒さんが、授業の教材の一つとして、「児童デイサービスフレイズホーム」の看板を手作りしてくださいました。コロナ感染症で、完成が遅くなりましたが、10月下旬に完成し、設置することができました。フレイズホームの利用者が3名在籍しており、学級のみなさんが、全員で、彫刻刀を使って、彫ってくれました。色も、生徒たちが考え、素晴らしい看板が2枚、完成しました。生徒のみなさん



とは、授業の中で、理事長の矢野と、テレビ電話でつながって、作成した感想について、一人一人と会話することができました。また、フレイズホームへの手紙も書いてくれ、生徒たちの思いが伝わりました。

林先生が、設置までしてくださいました。

本当に、ありがとうございました。



コロナ感染症の研修受講

札幌市が作成したコロナ感染症の対応についてのビデオを各事業所毎に視聴しました。感染を予防するための方法等について学びました。



コラム NO.6

「普段言わない感謝をこの機会に伝える」

八雲 七

私には2つ年上の兄がいる。大人になってからは会う機会も少ないのですが、昔から大きなケンカもなく私自身は仲良しだと思っている。そんな兄に普段は照れくさいので言わない感謝の気持ちを伝えたい1つのエピソードがある。それは今から5年ほど前、兄の結婚式の準備をしていた時のこと。

私が冗談半分で兄の結婚式に参加しないと発言したのです。それは兄を祝福したくないという訳ではなく障害を抱えている私がいることで相手側の親族に余計な不安を与えて印象が悪くなるとネガティブに考えてしまったのです。その気持ちを兄に伝えると兄はこう言いました。もしそんな親族がいたら俺が許さない。ぶん殴るから大丈夫。と。その言葉自体は乱暴ですが、私の気持ちを見透かした言い方に嬉しくなったのを覚えています。

兄はこのエピソードを覚えてないと思いますが、兄に感謝している1つのエピソードです。でもやっぱり照れるのでこのコラムを兄が読まないことを願っています。